

保存版

2024年2月改定

金山町

# 防災

## マップ 2024

いつ起きるか分からない。

目ごころから、災害に備えよう。

はじめに p.1

避難行動ガイド p.2

洪水・  
浸水害について p.3

土砂災害について p.4

火災対策について p.5

地震対策について p.6

防災気象情報 p.7

学ぼう防災 p.9

わが家の防災対策 p.10

備蓄品および  
非常時持ち出し品 p.11

情報伝達 p.12

防災マップの見方 p.13

避難施設一覧 p.14

金山町全体図 p.15

詳細図 No.1～11 p.17

行政機関  
ライフライン  
防災メモ 巻末

# はじめに

## 町民の皆様へ

自然災害による被害が毎年のように各地で発生していますが、近年発生する局地的集中豪雨や台風の大型化、大規模な地震など異常気象による自然災害は、私たちの想像をはるかに超えた規模となっております。当町でも平成23年3月の「東日本大震災」や同年7月の「新潟・福島豪雨」など、これまで多くの自然災害が発生し、大きな被害を受けました。

「これまで大丈夫だったから」と油断することなく、「いざ」という時に速やかな避難行動をとるためには、日頃から家族や隣近所、地域で話し合いをすることで防災意識を高め、災害に備えることが大切です。地域防災の基本は「自助」「公助」「共助」であり、これらを実現し災害に強い町づくりを進めるためには、町及び防災関係機関はもちろんのこと、町民の皆様や各事業所の皆様の日頃からの取組や連携が不可欠です。

町民の皆様一人ひとりが防災の重要性を認識され、日頃から備えていただくことが大切であり、その備えがいざという時に自分や家族を救うことにつながります。この「金山町防災マップ」は、様々な災害に対して事前に備えるための情報が掲載されています。

ぜひ、「金山町防災マップ」を家庭での日頃の防災対策にご活用いただきますようお願いいたします。

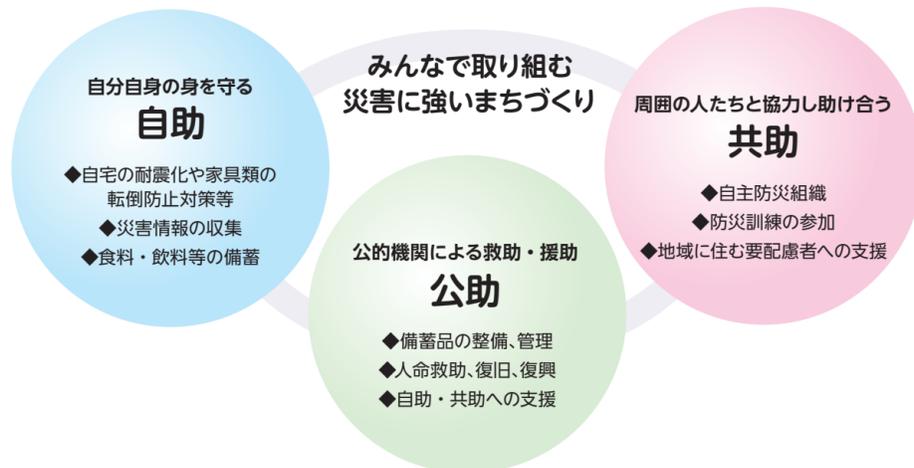
令和6年3月 金山町

## 地域の防災力を高める 自助・共助・公助

地震や洪水、台風等の自然災害による被害は、わたしたちの日ごろの努力によって減らすことが可能です。

行政による「公助」はいうまでもありませんが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。ただし、身のまわりの人を助けるには、まず自分自身が無事であればなりません。「自助」があつての「共助」です。

災害が起きてからでは間に合いません。いざという時に備え、適切な行動ができるよう日常的に防災を意識しましょう。



出典：内閣府ホームページ(<https://www.bousai.go.jp/index.html>)を加工して作成

## 家族みんなで防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときに慌てず行動できるよう、本書を活用いただき、家族で普段から話し合っておきましょう。

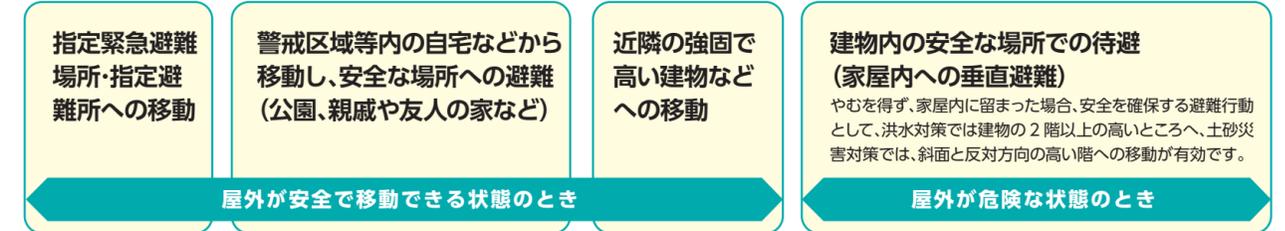
- 家具の置き方、工夫していますか? 
- 食料・飲料などの備蓄、十分ですか? 
- 非常用持ち出しバッグの準備、できていますか? 
- 安否確認方法決まっていますか? 
- 避難場所や避難経路確認していますか? 
- 関連お役立ちサイト、把握していますか? 
- もしもの時の情報収集、していますか? 

出典：首相官邸ホームページ(<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/index.html>)を加工して作成

# 避難行動ガイド

## 避難とは・・・

避難は、災害から命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。



住民の皆様が、「自らの命は自らが守る」という意識のもと、自主的な避難を行うために、町・県・国では防災情報を5段階の警戒レベルにより提供します。日頃からいざという時に備えて、災害時の取るべき行動の確認をお願いします。



それぞれの警戒レベルに相当する情報を、**早めの避難行動の判断**に役立ててください。町からの**避難指示等の発令に留意**するとともに、避難指示等が発令されていなくとも**自らの避難の判断**をしてください。警戒レベル5の状況では災害が発生して避難できなくなることから、**警戒レベル3や4の段階で避難することが重要**です。

水害・土砂災害について、町が出す避難情報を5段階に整理しました。

行動を促す情報	住民が取るべき行動	状況	警戒レベル
緊急安全確保※1	<b>命の危険 直ちに安全確保!</b> ・既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。 ・町が災害発生を把握していない場合もあり、必ず発令されるものではないことに留意する。	災害発生 又は切迫	5
<警戒レベル4までに必ず避難!>			
避難指示	<b>危険な場所から全員避難</b> ・非常時持ち出し品をもって、立退き避難をする。 ・立退き避難することが、かえって危険と判断される場合は、屋内で安全を確保する。	災害の おそれ高い	4
高齢者等避難	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b> ・気象情報に注意を払い、立退き避難の必要性について考える。 ・立退き避難が必要と判断する場合は、その準備と立退き避難をする。 ・要配慮者(障がい者や高齢者で避難行動が困難な人)は、この段階で立退き避難をする。	災害の おそれあり	3
大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	<b>自らの避難行動を確認</b>	気象状況悪化	2
早期注意情報 (気象庁)	<b>災害への心構えを高める</b>	今後気象状況悪化 のおそれ	1

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない

警戒レベル3は、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

避難指示などは、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難指示」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「**自主避難**」をお願いします。

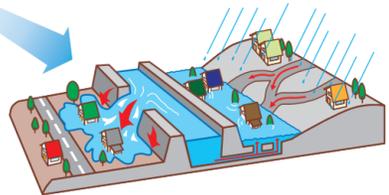
※「**自主避難**」とは・・・避難指示などを待たず、自主的に地区集会所、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食糧、飲物、日用品などを持参するようにしてください。

# 洪水・浸水害について

## 氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

**外水氾濫**  
大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。



**内水氾濫**  
その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示を出すのが難しいため、注意が必要。

## 大雨注意報・警報の発表基準

### 大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合

- ・表面雨量指数(注1)6
- ・土壌雨量指数(注2)83

### 大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合

(浸水害)表面雨量指数11 (土砂災害)土壌雨量指数124

記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

注1 表面雨量指数：短時間の強い雨による浸水害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が地中にしみ込まずに、地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

注2 土壌雨量指数：大雨による土砂災害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が土壌中にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

## 雨の強さと降り方

予報用語	1時間雨量(mm)	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
やや強い雨	10以上 20未満	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	雨の音で話し声が良く聞き取れない。	地面一面に水たまりができる。	—
強い雨	20以上 30未満	どしゃ降り。	傘をさしてもぬれる。		ワイパーを速くしても見づらい。	
激しい雨	30以上 50未満	バケツをひっくり返したように降る。		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。	道路が川のようなになる。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。(ハイドロプランニング現象)
非常に激しい雨	50以上 80未満	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	車の運転は危険。
猛烈な雨	80以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。				

## 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に突発的に短時間に集中して多量の雨が降ることで、「ゲリラ豪雨」とも言われています。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 防災行政無線の放送や、テレビの情報をよく確認する。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう！



## 避難行動のポイント、危険な場所

<p><b>！ 浸水が始まる前に早めの避難を</b></p> <p>氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。</p>	<p><b>！ 状況に応じた避難を</b></p> <p>周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に避難する。</p>	<p><b>！ 川や用水路に近づかない</b></p> <p>降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子を確認は、自治体などのライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中でも増水した川の近くを通るのは避ける。</p>	<p><b>！ 落雷から身を守る</b></p> <p>雷は場所を選ばず落ち、とくに、グラウンドやゴルフ場等の開けた場所や、山頂のような高い場所では人に落雷する可能性が高くなる。直撃の危険がある場合は、すぐに建築物や車へ避難することが大切。</p>
--	--	--	--

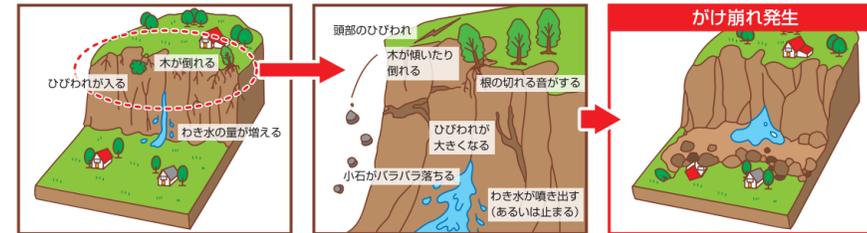
(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

# 土砂災害について

## 土砂災害の種類

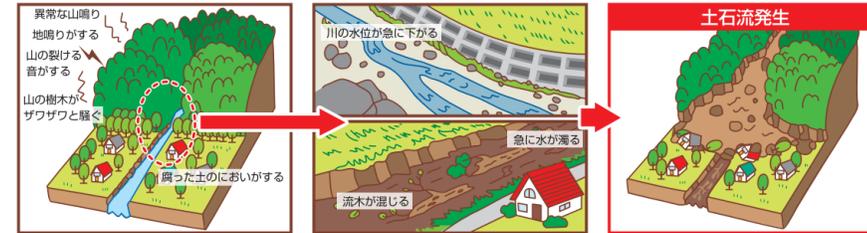
### がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



### 土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が多いため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

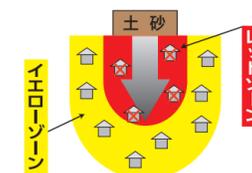


※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

## 土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、福島県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

<p><b>土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)</b></p>	<p>建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域</p>
<p><b>土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)</b></p>	<p>土砂災害のおそれがある区域</p>



## 避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

- 1 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。
- 2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。
- 3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。



# 火災対策について

## 初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

### 1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

### 2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

### ◆火元別初期消火のコツ

#### 油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。

#### 石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。

#### 衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すの方法。髪の毛の場合なら衣類(化纤は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

#### 風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火する。

#### 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火する。

#### カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけた上で消火する。

### 3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、消火の限界。速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 一酸化炭素などの有毒ガスを含んだ煙を吸い込まないように低い姿勢でマスク・タオル等で口をふさいで逃げる。

## 消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



### ◆消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



## ◆火災予防が一番!!

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

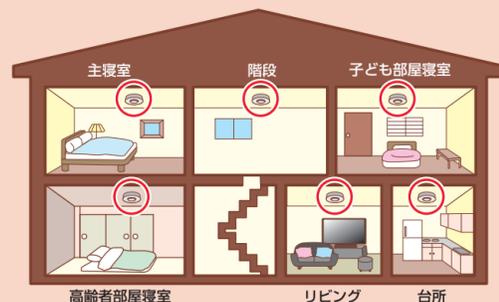
火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

住宅用火災警報器は、「煙式」と「熱式」の2種類があります。火災発生時、まず最初に発生するのは「煙」です。ある程度部屋の温度が上がらなると鳴らない熱式よりも、煙が発生した時点でなる煙式のほうがいち早く火災の発生を知ることができます。このことから、寝室にも台所にも煙式を推奨しています。

### 住宅用火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所、リビングへの設置もお勧めします(任意設置)。

注意：種類によって異なりますが、住宅用火災警報器の交換時期は、おおむね10年です。早めの交換をお願いします。



# 地震対策について

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

### 地震発生

#### ！とにかく自分の身を守ろう!

#### 地震だ! まず身の安全

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。



### 2~5分

#### ！しっかり火の始末で、火災防止!

#### 大揺れがおさまった

台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。



### 5~10分

#### ！わが家の安全確認、確保!

#### 火の始末のあと

家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。



### 10分~半日

#### ！隣近所の安否確認、助け合い!

#### 外に出たあと

家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。



### 半日~3日

#### ！2,3日は自分でしのぐ!

#### 避難後、数日間

地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。

## 屋内にいた場合

### 家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確認し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

### 商店・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

### 集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



## 屋外にいた場合

### 路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



### 車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



### 公共交通などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

# i 防災気象情報

## 特別警報

警報の発表基準をはるかに超える大雨や大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれ著しく高まっている場合、気象庁は「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼びかけます。

### ◆気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

※発表にあたっては、降水量、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などについて過去の災害事例に照らして算出した客観的な指標が設けられており、これらの実況および予想に基づいて気象庁が判断します。

### ◆地震(地震動)・火山・津波に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

※これらの特別警報は、名称に「特別警報」は用いず、従来どおりの名称で発表します。

### 特別警報が発表されたら

- ① 尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ② 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ③ ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

## 土砂災害警戒情報

大雨警報(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難指示の発令判断や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

危険な場所からの避難が必要な警戒レベル4に相当します。

土砂災害警戒情報が発表された市町村内で

危険度が高まっている詳細な領域は土砂キキル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)で確認できます。

土砂災害によって命が脅かされる危険性が認められる土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、遅くとも該当領域に「危険」(紫色)が出現した時点で速やかに避難を開始することが大変重要です。周囲の状況や雨の降り方にも留意し、危険を感じたら躊躇することなく自主避難を行いましょ。

## 記録的短時間大雨情報

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析:解析雨量)したりしたときに発表します。この情報は、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために、雨量基準を満たし、かつ、大雨警報発表中に、キキル(危険度分布)の「危険」(紫)が出現している場合に気象庁から発表されます。

この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかをキキル(危険度分布)で確認してください。

## 顕著な大雨に関する気象情報

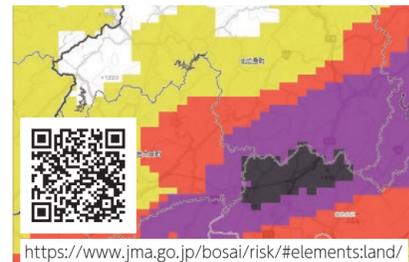
大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報です。警戒レベル4相当以上の状況で気象庁から発表されます。顕著な大雨に関する情報が発表されていなくとも、広範囲で激しい雨が長時間継続するような場合には、甚大な災害が発生する場合があります。顕著な大雨に関する情報を待つことなく、災害発生の危険度の高まりを示すキキル(危険度分布)を活用いただくことが極めて重要です。

(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)

## キキル(危険度分布)

どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる、命を守るための情報です。

### 土砂キキル 大雨警報(土砂災害)の危険度分布

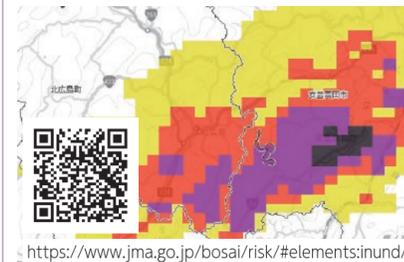


<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land/>

紫：崖・溪流の近くは危険



### 浸水キキル 大雨警報(浸水害)の危険度分布



<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:inund/>

紫：低地は危険

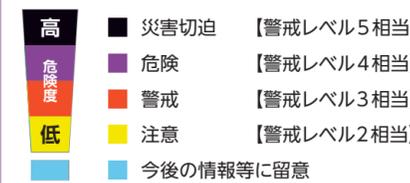


### 洪水キキル 洪水警報の危険度分布



<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:flood/>

紫：河川沿いは危険



※使用している携帯電話・アプリケーションによっては二次元コードの読み取りができない場合があります。(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)

## 気象・防災情報を入手し事前の準備などに生かしましょう。

### 金山町ホームページ

<https://www.town.kaneyama.fukushima.jp/>

### 金山町 LINE公式アカウント

お友達登録はこちらから!

### ◎ 気象庁

気象庁が発表する気象情報・地震・津波情報・データ・火山・気候・環境・海洋情報など

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>



### ◎ 気象庁(気象警報・注意報:金山町)

気象警報や注意報(金山町)を確認出来るウェブサイト

[https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#area\\_type=class20s&area\\_code=0744500](https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#area_type=class20s&area_code=0744500)



### ◎ 国土交通省「川の防災情報」

全国の水位・雨量・レーダー雨量・ダム・水質・積雪深・河川の予警報など

<https://www.river.go.jp/index>



### ◎ 「Yahoo!防災速報」(ヤフー株式会社)

避難情報や緊急地震速報、津波予報、豪雨予報等の災害情報や今後の予報・予測を緊急のお知らせとして通知するヤフー株式会社のサービスです。

<https://emg.yahoo.co.jp/>



### ◎ 内閣府「防災情報システム」

全国の地震・津波・気象・河川・被害状況・ライフライン・災害救助や生活支援など

<https://bousai-system.go.jp/index.jsp>



### ◎ NHKあなたの天気・防災(金山町)

天気や災害情報(金山町)をまとめてお伝えするウェブサイト

<https://www.nhk.or.jp/kishou-saigai/city/weather/07445000744500/>



### ◎ 福島県河川流域総合情報システム

雨量・水位状況、気象情報、水防情報、土砂災害警戒情報など

[https://kaseninf.pref.fukushima.jp/web\\_pub/riverMap\\_1.html](https://kaseninf.pref.fukushima.jp/web_pub/riverMap_1.html)



### ◎ 「キキル」(危険度分布)の通知サービス

気象庁で公表している、大雨による「土砂災害」「浸水害」「洪水災害」の危険度の高まりを5段階の色分けで地図上に表示する「危険度分布(愛称:キキル)」。大雨による危険の高まりをアプリやメールなどで知らせてくれる通知サービスを、気象庁の協力のもと、民間事業者5社が提供しています。

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/ame\\_push.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/ame_push.html)





# まな ぼう さい 学ぼう防災 「命を守る」 ための防災教育

## 避難するとき

特に洪水時に避難するときは、川のそばの道路の利用は避けましょう。水があふれたりする場合がありますが大変危険です。



避難がはじまり、危険がせまった場合は、近くの丈夫な建物の3階以上に逃げましょう。



ラジオ・テレビで最新の気象情報に注意しましょう。



避難時は、役場・消防署・警察署などの指示にしたがい、早めに避難をしましょう。



避難するまえに、電気・ガスなどの火元を消し、必要なものをまとめておきましょう。



近くの避難所の場所を、確認しておきましょう。



車の避難は緊急車両の妨げになるので控えましょう。徒歩での避難を行いましょう。



浸水した所は、溝や水路に気づきにくいので、十分注意して避難をしましょう。



役場、消防署からの避難の呼びかけに注意しましょう。



洪水時の、はだし、長靴での避難は危険です。動きやすい運動靴で避難をしましょう。

## 助け合いましょう

体の不自由な方や、お年寄りの方は避難することが困難であったり遅れたりすることがあるため、みんなで協力して助けあいましょう。

目の不自由な方には



声をかけて一緒に行動しましょう。

一人暮らしのお年寄りの方には



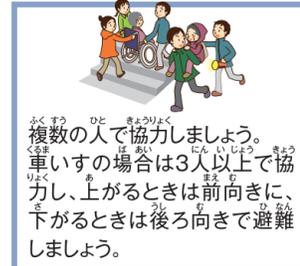
普段から気をくばりましょう。

耳が不自由な方には



まっすぐ顔をむけ、口を大きくはっきり動かしましょう。紙に書いたり、身振りで情報をわかりやすく伝えましょう。

体の不自由な方には



複数の方で協力しましょう。車いすの場合は3人以上で協力し、上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きで避難をしましょう。

## 避難所では

たくさんの方々が共同で生活するため、お互いの心くばりや思いやりが大切です。不安な気持ちで避難していますので、お互いに気持ちよく過ごせるよう努めましょう。

**① 水分・塩分補給**  
をこまめに

トイレを気にして水を飲む量が減りがちです。こまめな水分・塩分補給で熱中症予防をしましょう。

**② 手を清潔に**

食事の前やトイレの後には手洗いを。流水が使えないときは、アルコールを含んだ手指消毒薬を使用しましょう。

**③ 食中毒に注意!**

出された食事はすぐに食べましょう。下痢、発熱、手指に傷がある人は、調理や配食を行わないようにしましょう。

**④ 体の運動**

エコノミークラス症候群の予防、寝たきりの予防のためにも積極的に体を動かしましょう。

**⑤ うがい・歯磨き**

うがい、歯磨きをできるだけ行い、かぜの予防、口の中の衛生を保ちましょう。

**⑥ 十分な睡眠・休息**

誰もが不安を感じています。休息や睡眠を意識してとりましょう。

**⑦ 必要なときはマスクを着用**

咳をしているときや、アレルギーの原因となるほこりを避けるために、必要なときはマスクを使いましょう。

**⑧ 薬で困っている場合は相談を**

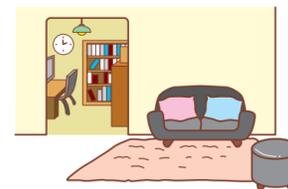
薬が手元になかったり、薬で困っているときは、医師、薬剤師、保健師などに相談を。

# わが家の防災対策

## 家の中の安全対策 ●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

### 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



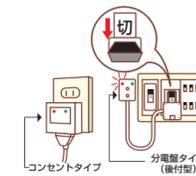
### 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



### 電気火災発生防止

地震による火災の原因の多くは電気に関連。電気ストーブや電気コンロの転倒や、停電復旧時の通電火災(破損した電気コードのショートによる火災など)がある。電気火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置が有効。



### 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋にはできるだけ家具を置かない

就寝中に地震に襲われると家具が倒れるおそれがあり危険。やむをえず置く場合は、なるべく背の低い家具にするとともに、寝ている場所に倒れないよう、また出入口をふさがないように、向きや配置を工夫する。



### 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



### 手の届くところに防災品を備える

夜間就寝時、停電になると周囲の確認ができず危険。地震の場合はガラスが散乱したり、部屋に閉じ込められることもある。普段寝る場所から手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを。



## 家具の転倒、落下を防ぐポイント ●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

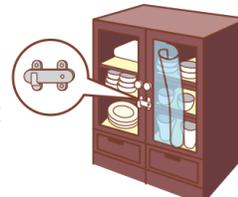
### ダンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



### 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



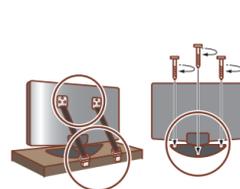
### 照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



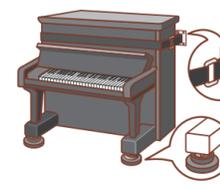
### 冷蔵庫

所定の取り付け場所(運搬用取っ手など)を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。



### テレビ

テレビ台とテレビを直接固定するのが有効。脚などに専用の取り付け箇所がある場合はボルト等で取り付け、そうでないものは転倒防止ベルトなどで固定する。



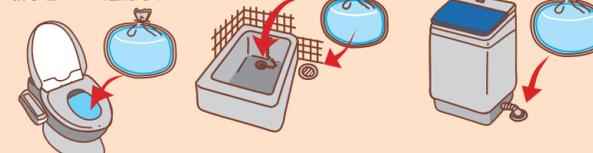
### ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。

## 住宅の浸水被害を防ぐには

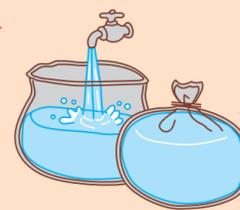
浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の侵入口となる場所を塞ぐことで水の侵入を減少させることができます。トイレなどの逆流防止にも有効です。\*実施の際には避難の妨げにならないように気を付けてください。

排水口からの逆流対策に



### 「水のう」の作り方

40L程度のゴミ袋を二重にして半分程度の水を入れる。空気を抜いて口をしぼる。



長めの板状のものと組み合わせ、止水板に

土を入れたプランターをレジャーシートなどで包むのも有効

# 備蓄品および非常時持ち出し品

避難するときに最初に持ち出すのが「非常時持ち出し品」。  
災害直後から混乱が収まるまでの数日間、自給自足するための物資が「備蓄品」です。  
以下は一例です。とくに非常時持ち出し品は、持って逃げられる量にしましょう。(男性 15kg 女性 10kgが目安)

## 非常時持ち出し品

●事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

- |  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| <b>貴重品</b>   | <b>情報収集用品</b>  | <b>非常飲食品など</b>  | <b>衛生用品</b>   |
| <input type="checkbox"/> 現金 ※公衆電話用に硬貨も<br><input type="checkbox"/> 印鑑<br><input type="checkbox"/> 家や車の予備鍵<br><input type="checkbox"/> 証書類のコピー<br>(健康保険証、免許証、通帳、保険証書、権利書など) | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ ※予備電池も<br><input type="checkbox"/> 携帯電話(スマートフォン)の充電器<br><input type="checkbox"/> モバイルバッテリー ※ライト付きが便利<br><input type="checkbox"/> 筆記用具 | <input type="checkbox"/> 非常食<br>※軽く高カロリーのもの<br><input type="checkbox"/> 飲料水<br><input type="checkbox"/> 給水袋<br><input type="checkbox"/> 万能ナイフ | <input type="checkbox"/> 救急セット ※常備薬も<br><input type="checkbox"/> タオル<br><input type="checkbox"/> マスク<br><input type="checkbox"/> 消毒液<br><input type="checkbox"/> 体温計<br><input type="checkbox"/> トイレ用ペーパー<br><input type="checkbox"/> ウェットティッシュ<br><input type="checkbox"/> ビニール袋<br><input type="checkbox"/> 下着類<br><input type="checkbox"/> オムツ |

- |   |  |
|---|--|
| <b>安全用品</b>   | <b>女性向け</b>  |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 ※予備電池も<br><input type="checkbox"/> ヘルメット<br><input type="checkbox"/> 防災ずきん<br><input type="checkbox"/> 軍手<br><input type="checkbox"/> スリッパ <input type="checkbox"/> 笛やブザー ※居場所を知らせるもの<br><input type="checkbox"/> マッチ・ライター<br><input type="checkbox"/> 毛布・保温シート<br><input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | <input type="checkbox"/> 生理用品(生理1周期分)<br><input type="checkbox"/> おりものシート<br><input type="checkbox"/> 携帯用ビデ、軟膏<br><input type="checkbox"/> スキンケア用品<br>基礎化粧品等 |



## 定期的に点検を!

いざというときに支障がないように食品類の賞味期限や持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

## 備蓄品

●少なくとも3日(できれば1週間)は自力で生活できるように準備

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>飲料水 ※1人1日3ℓ</li> <li>食品 ※アルファ化米、長期保存食品など専用品の他、下記ローリングストックの活用を</li> <li>給水用ポリタンク・バケツ</li> <li>カセットコンロ・ガスボンベ</li> <li>使い捨ての食器類</li> <li>食品用ラップ</li> <li>ランタン</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>災害用トイレセット</li> <li>からだ拭きシート</li> <li>水のいらないシャンプー</li> <li>ガムテープ</li> <li>ビニールシート</li> </ul> |
|--|--|



上記リストを参考に、特に乳幼児用品、高齢者用品等、災害時に配慮すべき方の用品も、家族構成に合わせて追加しましょう。

## ローリングストックについて

備蓄専用の保存食なども大切ですが、普段から少し多めに食料品や日用品を買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の備蓄を自宅に確保しておくことをローリングストックと言います。日常生活の中に、非常備蓄を上手に組み込みましょう。

- 一対象品目の例—
- ペットボトルの水や飲み物、レトルト食品、インスタント食品、お菓子、乾麺、缶詰、乾物、漬物
  - カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、トイレ用ペーパー、食品用ラップ、ビニール袋、乾電池、使い捨てカイロ



# 「情報伝達」～避難後の伝言・伝達方法～

避難後の伝言・伝達方法を知っておこう。

## 避難した後



## 災害用伝言ダイヤル171

災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。被災地の方が、安否情報(伝言)を音声で録音することで、全国からその音声を再生することができます。

## 災害用伝言ダイヤルとは?

NTTでは、災害発生時に、被災地への通信がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。NTT「災害用伝言板(web171)」との連携により、伝言内容を相互に確認が可能。「171」をダイヤルし利用ガイドスに従って、伝言の録音・再生を行って下さい。

伝言保存期間	運用期間終了まで	利用可能電話	加入電話、ISNネット、公衆電話、ひかり電話からご利用できます。 ※ISNネット、ひかり電話でダイヤル式電話をお使いの場合にはご利用になれません。 ※携帯電話、他通信事業者の電話からのご利用については、ご契約の各通信事業者にお問い合わせ下さい。
伝言蓄積数	1電話番号あたり1~20件(提供時にお知らせいたします)		
伝言内容	1伝言あたり30秒以内		

## 災害用伝言板(携帯電話・スマートフォン)

携帯電話のインターネット接続機能で、被災地の方が文字でメッセージを登録し、携帯電話番号をもとにして全国から伝言を確認できます。(スマートフォンでのご利用については、各社のページでご確認ください。)

## 利用方法【画面例】



# 防災マップの見方

## 防災マップとは

金山町で想定される大雨洪水災害における浸水想定範囲などを示したマップです。また、近年各地で発生している様々な災害に対し、事前に備えることで日頃の心構えや被害を最小限にとどめるための基礎知識を掲載しました。ぜひご家庭内の目に付くところに常備していただき、災害予防対策に役立ててください。

## 防災マップの使い方

- ①自宅の位置に印をつけましょう。
- ②避難所に印をつけ、避難経路を記入しましょう。  
(避難経路を決める際には、できるだけ水路などを避けましょう)
- ③実際に避難経路を歩いて、安全を確認しましょう。
- ④家族で話し合い、いざという時の避難所や連絡の取り方などを確認しましょう。
- ⑤地域のみなさんと、災害時や避難時に協力し合うよう話し合いましょう。



# 避難施設一覧

## 避難施設の種類

### 避難場所

災害発生後の一時避難場所として、各地区の集会所などを指定しています。

### 避難所

災害による家屋の倒壊やその恐れがあるなどで、居住場所を確保できなかった人たちの収容保護を目的として、物資の運搬・集積・炊事・宿泊などの利便性を考慮したうえで、学校・公民館・公共施設などを指定しています。

## 避難場所・避難所一覧

令和6年2月現在

No.	集落名	施設名	所在地	掲載頁	電話番号	避難所	対応災害区分			避難場所	AED
							地震	洪水	土砂災害		
1	川口	金山小学校	金山町大字川口字馬場324	P23	54-2251	●	○	○	○		○
2	川口	金山中学校	金山町大字川口字谷地400	P23	54-2337	●	○	○	○		○
3	川口	川口保育所	金山町大字川口字金洗道上1546-1	P23	54-2822	●	○	○	×		○
4	川口	金山町開発センター	金山町大字川口字谷地393	P23	54-5361	●	○	○	○		
5	川口	川口集会所	金山町大字川口字上町656-2	P23	54-2619					●	
6	小栗山	生活体験館	金山町大字小栗山字上村1921	P23・29	54-2818	●	○	○	○		
7	八町	八町集会所	金山町大字八町字居平660	P29	54-2293					●	
8	玉梨	玉梨集会所	金山町大字玉梨字上中井1409-3	P29・36	54-2018					●	
9	玉梨	自然教育村会館	金山町大字玉梨字上中井1384	P29・36	54-2963					●	
10	西谷	西谷集会所	金山町大字西谷字下モ在家412	P22・23	—					●	
11	本名	御神楽館	金山町大字本名字船渡915	P22	54-5011	●	○	○	○		○
12	本名	本名公民館	金山町大字本名字清水807	P22	54-2520	●	○	○	○		
13	橋立	橋立集会所	金山町大字越川字下村1652	P27	56-4405					●	
14	大志	大志集会所	金山町大字大志字居平8-1	P23	54-2921					●	
15	板下・宮崎	町民体育館	金山町大字中川字沖根原1233-2	P17	55-3009	●	○	○	○		○
16	板下・宮崎	ゆうゆう館	金山町大字中川字沖根原1324	P17	55-3336	●	○	○	×		
17	上田	上田集会所	金山町大字水沼字上田345-1	P17	54-5361					●	
18	水沼	沼沢公民館	金山町大字水沼字後山842	P18・19	55-3010	●	○	○	×		
19	上大牧	上大牧集会所	金山町大字水沼字上大牧2116	P18・19	—					●	
20	下大牧	下大牧集会所	金山町大字水沼字下大牧2424	P19	—					●	
21	高倉	高倉集会所	金山町大字水沼字高倉3592-1	P20	—					●	
22	大栗山	大栗山公民館	金山町大字大栗山字居平789	P18・19	—					●	
23	福沢	福沢集会所	金山町大字大栗山字中居平1792	P19	—					●	
24	三更	三更集会所	金山町大字大栗山字雨沼2583-1	P20・26	—					●	
25	沼沢	沼沢集会所	金山町大字沼沢字上田表962-1	P25	55-3015	●	○	○	○		
26	太郎布	若者交流センター	金山町大字太郎布字宮平112-1	P24	54-2330	●	○	○	○		
27	太郎布	太郎布集会所	金山町大字太郎布字上村469	P24・30	—					●	
28	横田	横田公民館	金山町大字横田字居平601-1	P33	56-4111	●	○	○	×		○
29	横田	横田小学校	金山町大字横田字上原1070	P33	56-4800	●	○	○	×		○
30	横田	横田保育所	金山町大字横田字古町691	P33	56-4140	●	○	○	○		○
31	上横田	上横田集会所	金山町大字横田字浜子1400	P33	56-4950					●	
32	土倉	土倉集会所	金山町大字大塩字土倉3653	P33	—					●	
33	西部	西部集会所	金山町大字大塩字西部4336-3	P34	—					●	
34	大塩	大塩集会所	金山町大字大塩字上ノ山1872-2	P32	56-4335					●	
35	大塩	大塩地区体育館	金山町大字大塩字沢ノ目954	P32	56-4956	●	○	○	×		○
36	滝沢	滝沢集会所	金山町大字滝沢字久保946-1	P32	56-4462					●	
37	田沢	田沢集会所	金山町大字田沢字居平418-1	P32	56-4620					●	
38	新遠路	新遠路集会所	金山町大字山入字居平951	P37	—					●	
39	鮭立	芸能伝承館	金山町大字山入字鮭立居平2771	P37	—	●	○	○	×		○
40	藤倉	藤倉集会所	金山町大字山入字藤倉居平3887	P38	—					●	
41	越川	越川集会所	金山町大字越川字下前田975-3	P34	56-4953					●	

※避難所の開設は、防災無線等でお知らせします。

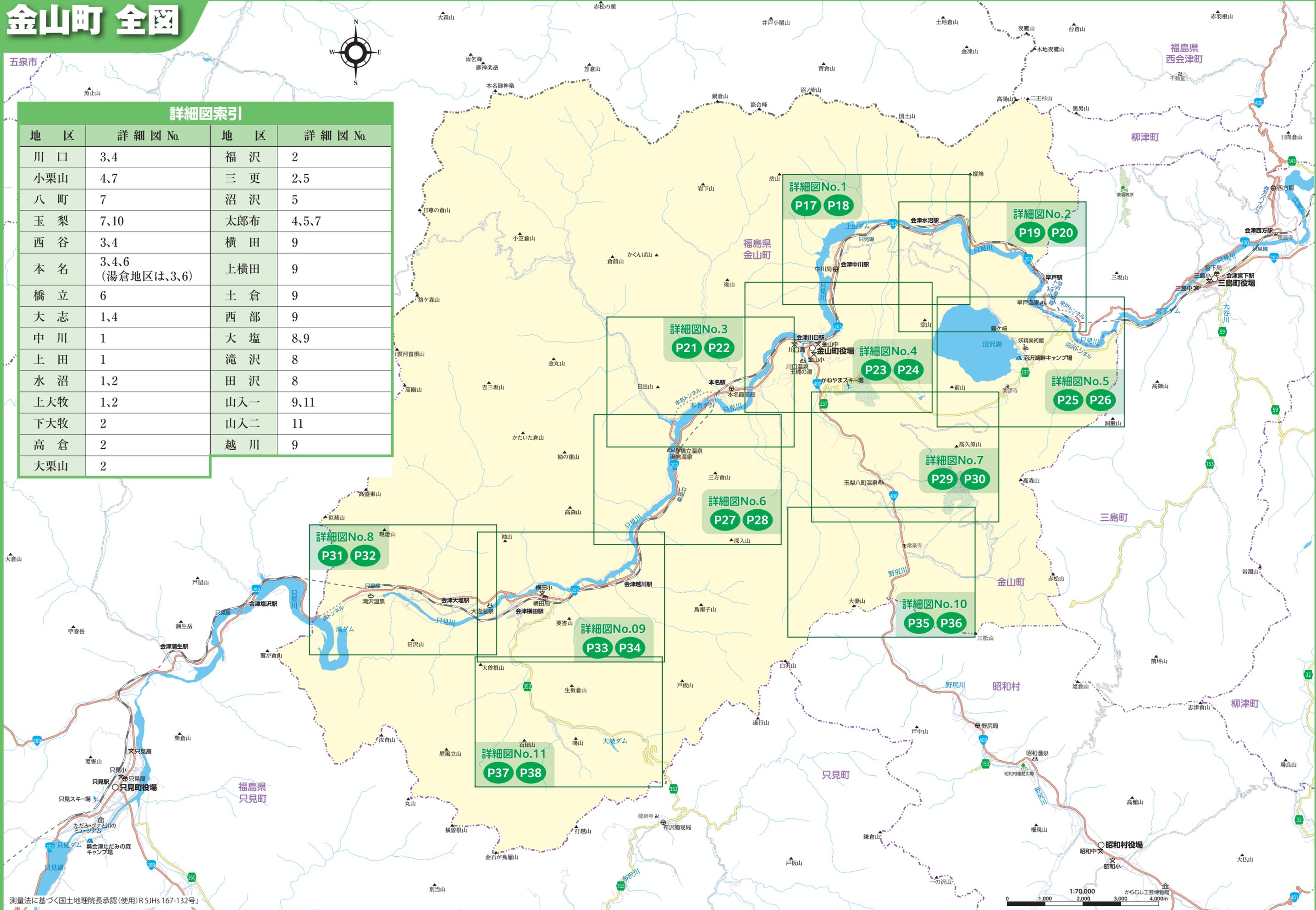
(17カ所)

(24カ所)

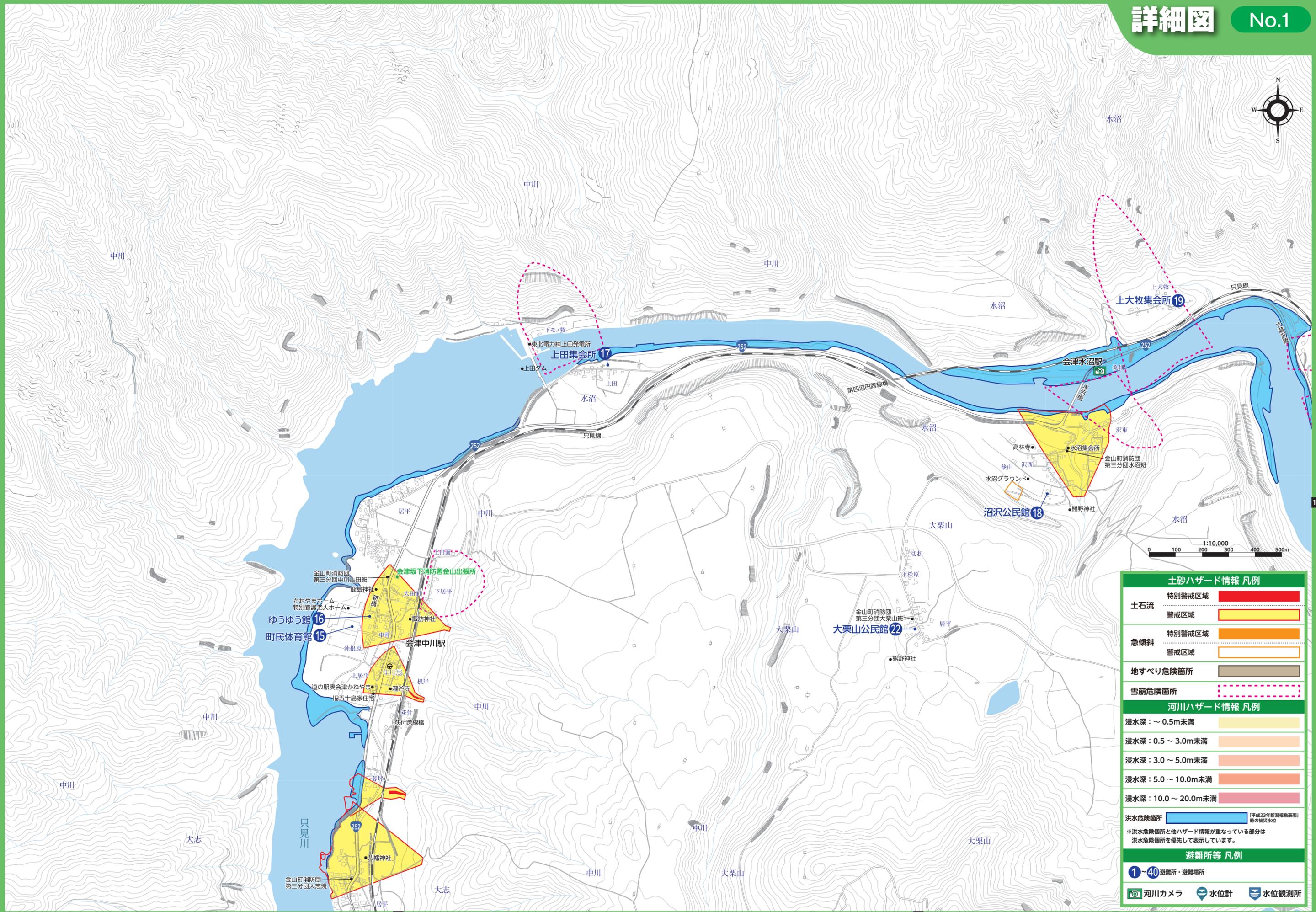
# 金山町 全図

五泉市

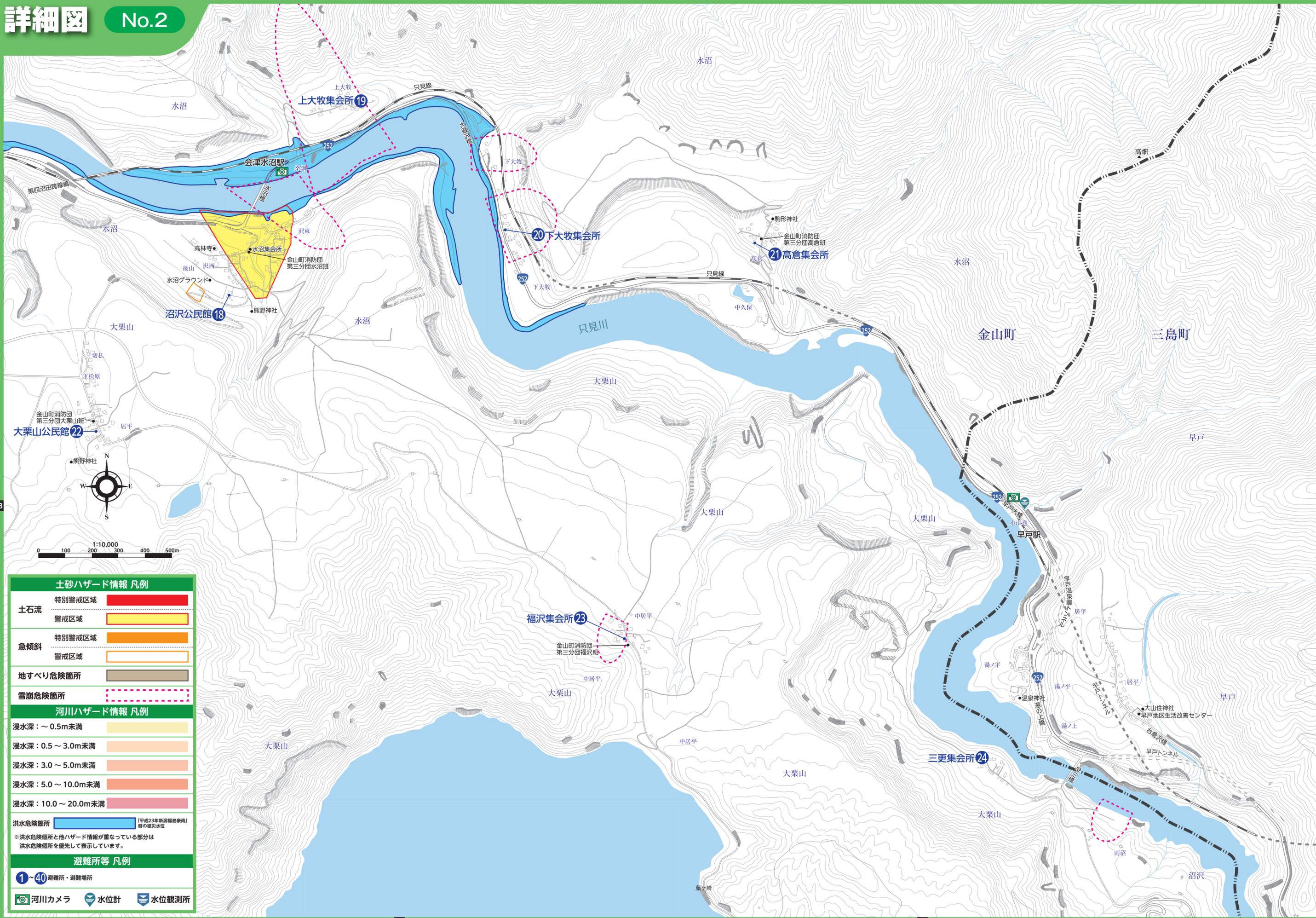
詳細図索引			
地区	詳細図 No.	地区	詳細図 No.
川口	3,4	福沢	2
小栗山	4,7	三更	2,5
八町	7	沼沢	5
玉梨	7,10	太郎布	4,5,7
西谷	3,4	横田	9
本名	3,4,6 (湯倉地区は、3,6)	上横田	9
橋立	6	土倉	9
大志	1,4	西部	9
中川	1	大塩	8,9
上田	1	滝沢	8
水沼	1,2	田沢	8
上大牧	1,2	山入一	9,11
下大牧	2	山入二	11
高倉	2	越川	9
大栗山	2		



測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 5JHs 167-132号J



土砂ハザード情報 凡例	
土石流	特別警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:red;"></span>
	警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:yellow;"></span>
急傾斜	特別警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:orange;"></span>
	警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightorange;"></span>
地すべり危険箇所	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:brown;"></span>
雪崩危険箇所	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; border:1px dashed pink;"></span>
河川ハザード情報 凡例	
浸水深：～0.5m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightyellow;"></span>
浸水深：0.5～3.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:yellow;"></span>
浸水深：3.0～5.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:orange;"></span>
浸水深：5.0～10.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightorange;"></span>
浸水深：10.0～20.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:orange;"></span>
洪水危険箇所	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:blue;"></span> <small>【平成23年新潟県豪雨】時の被災水位</small>
<small>※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は洪水危険箇所を優先して表示しています。</small>	
避難所等 凡例	
①～④⑩ 避難所・避難場所	
	河川カメラ
	水位計
	水位観測所



**土砂ハザード情報 凡例**

**土石流**

- 特別警戒区域 (Red)
- 警戒区域 (Yellow)

**急傾斜**

- 特別警戒区域 (Orange)
- 警戒区域 (Light Orange)

**地すべり危険箇所** (Brown)

**雪崩危険箇所** (Pink dashed line)

**河川ハザード情報 凡例**

浸水深：～0.5m未満 (Light Yellow)

浸水深：0.5～3.0m未満 (Light Orange)

浸水深：3.0～5.0m未満 (Orange)

浸水深：5.0～10.0m未満 (Dark Orange)

浸水深：10.0～20.0m未満 (Red)

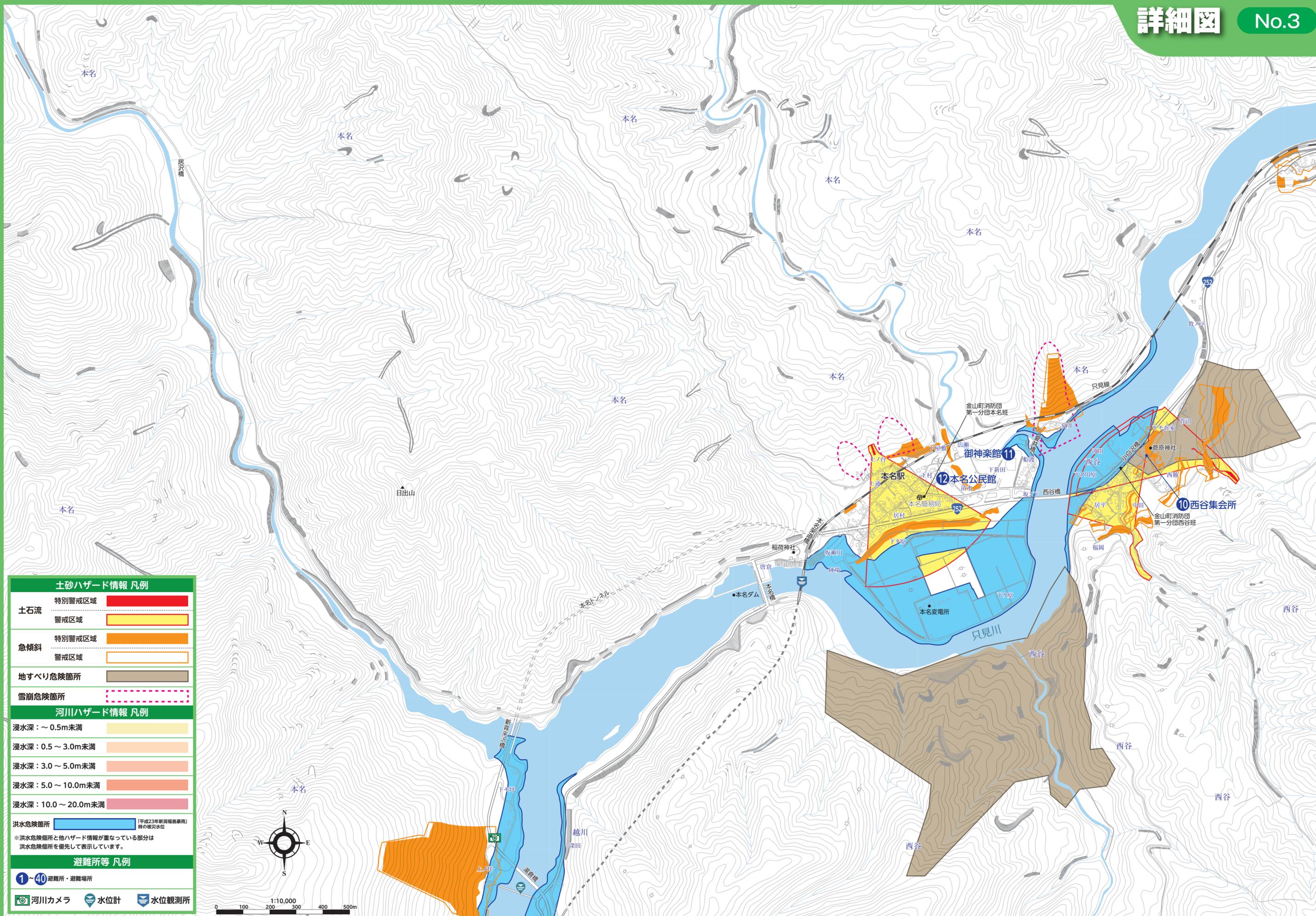
洪水危険箇所 (Blue) 【平成23年新潟福島豪雨】時の被災水位

※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は洪水危険箇所を優先して表示しています。

**避難所等 凡例**

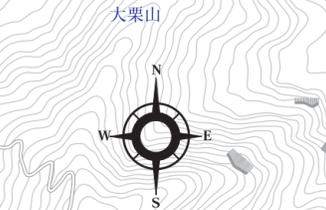
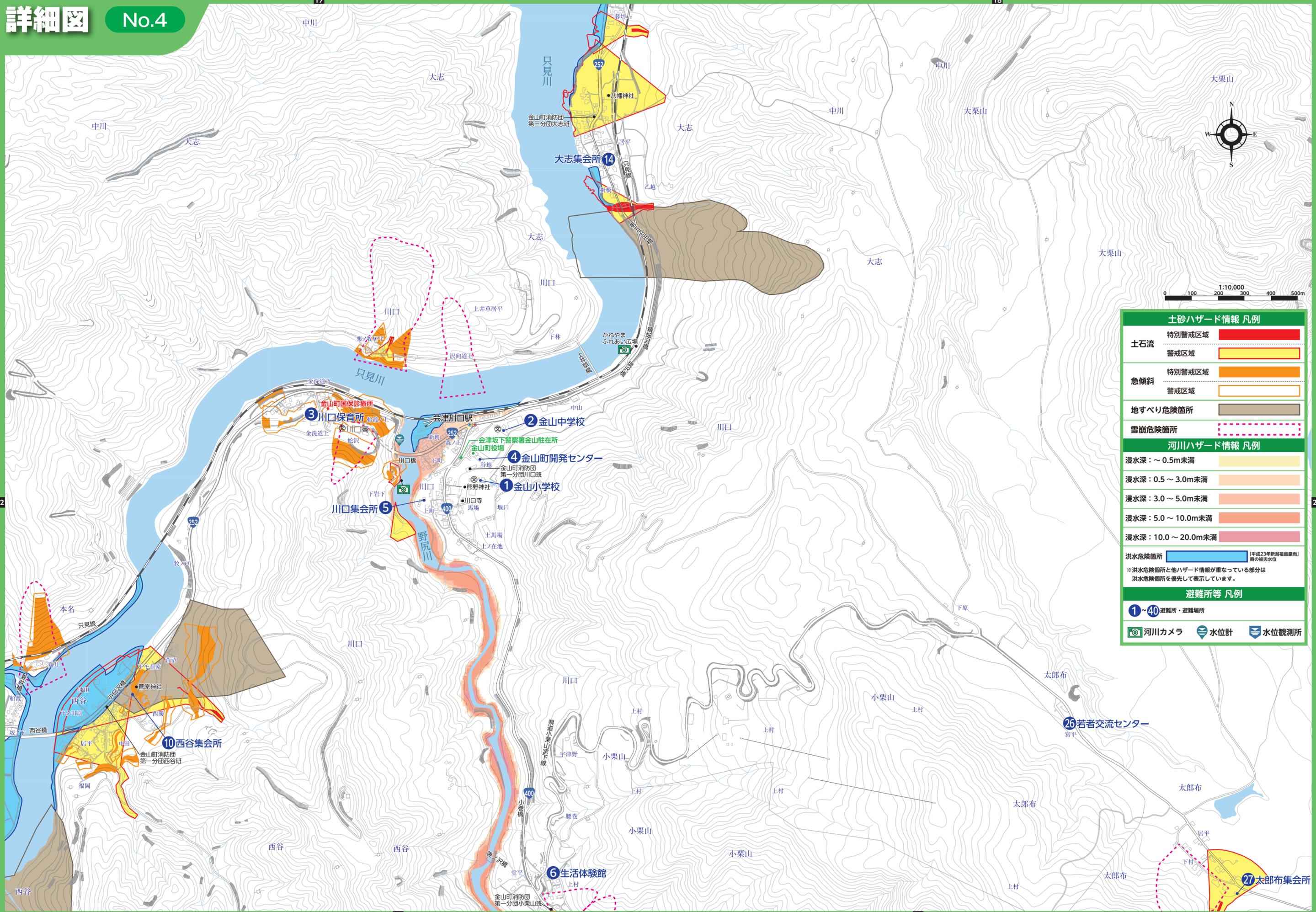
①～④⑩ 避難所・避難場所

📷 河川カメラ 📊 水位計 📏 水位観測所



土砂ハザード情報 凡例	
土石流	特別警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:red;"></span>
	警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:orange;"></span>
急傾斜	特別警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:orange;"></span>
	警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; border:1px solid orange;"></span>
地すべり危険箇所	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightgrey;"></span>
雪崩危険箇所	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; border:2px dashed pink;"></span>
河川ハザード情報 凡例	
浸水深：～0.5m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:yellow;"></span>
浸水深：0.5～3.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightorange;"></span>
浸水深：3.0～5.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:orange;"></span>
浸水深：5.0～10.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:darkorange;"></span>
浸水深：10.0～20.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:red;"></span>
洪水危険箇所	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:blue;"></span> <small>【平成23年新潟福島豪雨】時の被災水位</small>
<small>※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は洪水危険箇所を優先して表示しています。</small>	
避難所等 凡例	
①～④⑩	避難所・避難場所
	河川カメラ
	水位計
	水位観測所





土砂ハザード情報 凡例	
土石流	特別警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:red; border:1px solid black;"></span>
	警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:yellow; border:1px solid black;"></span>
急傾斜	特別警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:orange; border:1px solid black;"></span>
	警戒区域 <span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightorange; border:1px solid black;"></span>
地すべり危険箇所	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:brown; border:1px solid black;"></span>
雪崩危険箇所	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; border:1px dashed pink;"></span>
河川ハザード情報 凡例	
浸水深：～0.5m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:lightyellow;"></span>
浸水深：0.5～3.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:orange;"></span>
浸水深：3.0～5.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:darkorange;"></span>
浸水深：5.0～10.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:red;"></span>
浸水深：10.0～20.0m未満	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:darkred;"></span>
洪水危険箇所	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:blue;"></span> <small>〔平成23年新潟福島豪雨時の被災水位〕</small>
<small>※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は洪水危険箇所を優先して表示しています。</small>	
避難所等 凡例	
①～④⑩	避難所・避難場所
	河川カメラ
	水位計
	水位観測所

22

25

23

29

30

24

27 太郎布集会所

26 若者交流センター

6 生活体験館

金山町消防団 第一分団小栗山班

10 西谷集会所

金山町消防団 第一分団西谷班

1 金山小学校

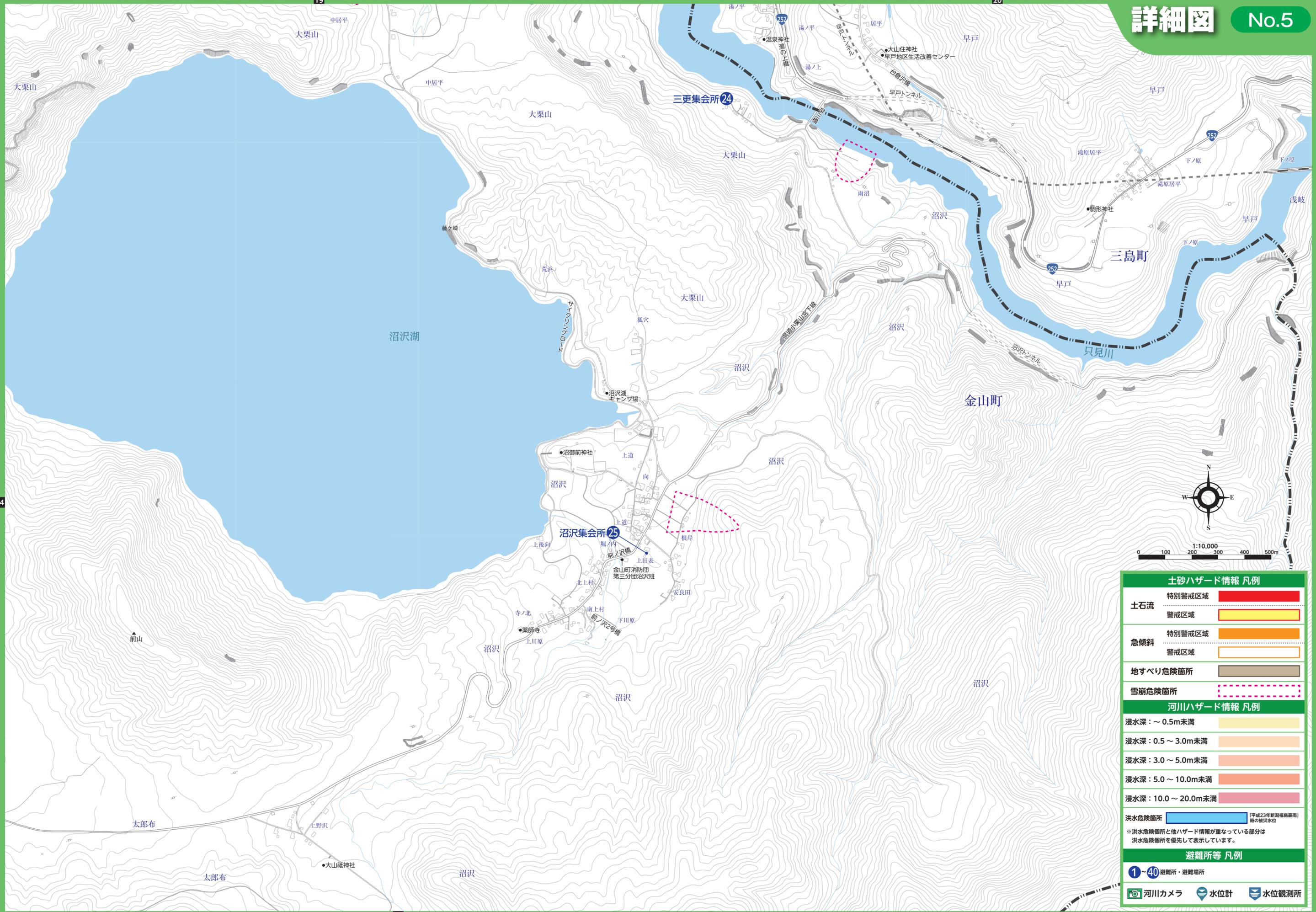
4 金山町開発センター

2 金山中学校

3 川口保育所

川口集会所 5

大志集会所 14



土砂ハザード情報 凡例

土石流	特別警戒区域	
	警戒区域	
急傾斜	特別警戒区域	
	警戒区域	
地すべり危険箇所		
雪崩危険箇所		

河川ハザード情報 凡例

浸水深：～0.5m未満	
浸水深：0.5～3.0m未満	
浸水深：3.0～5.0m未満	
浸水深：5.0～10.0m未満	
浸水深：10.0～20.0m未満	

洪水危険箇所 〔平成23年新潟県豪雨〕時の被災水位  
 ※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は洪水危険箇所を優先して表示しています。

避難所等 凡例

- 1～40 避難所・避難場所
- 河川カメラ
- 水位計
- 水位観測所

24

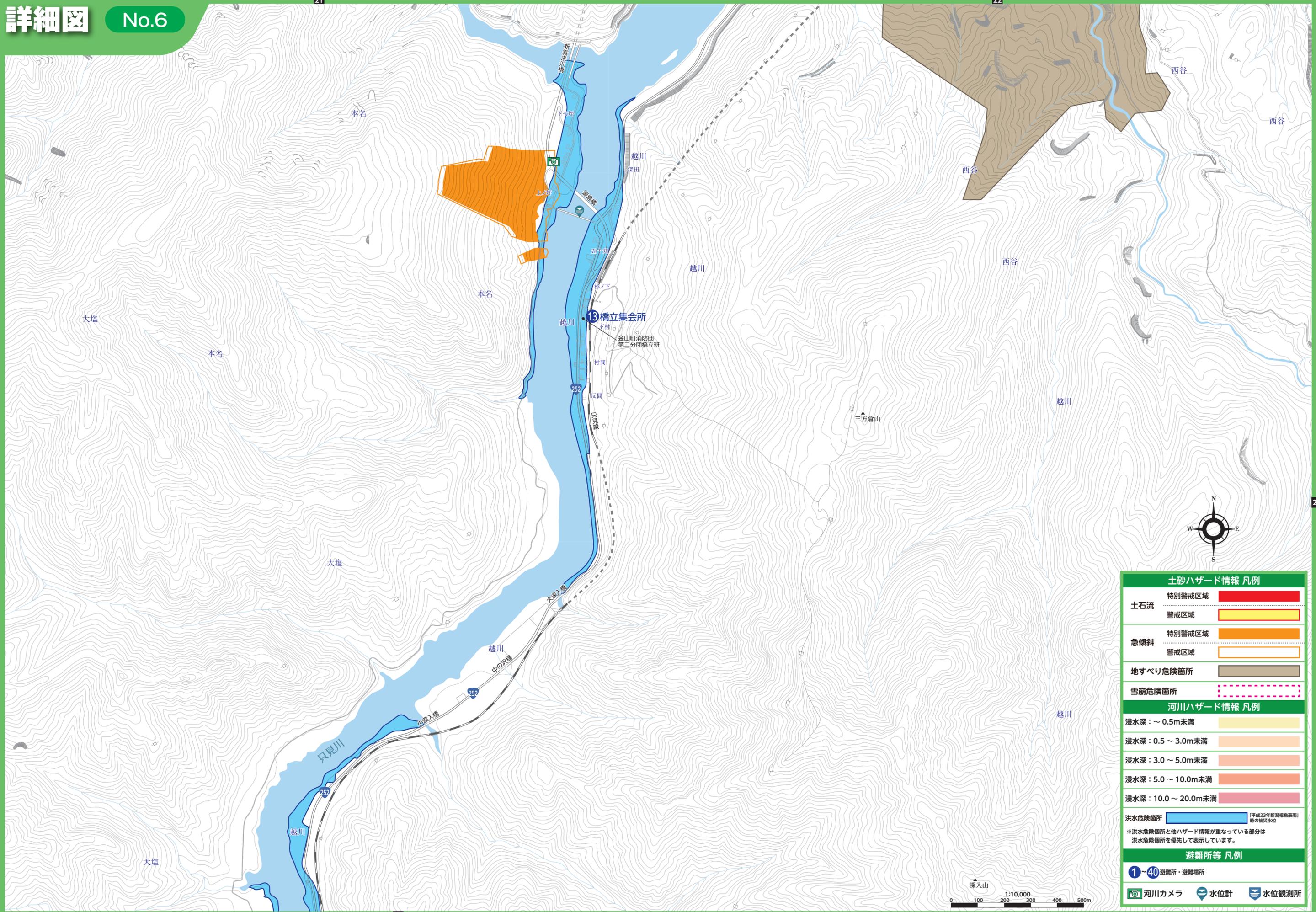
19

20

25

30

26



土砂ハザード情報 凡例

土石流	特別警戒区域	
	警戒区域	
急傾斜	特別警戒区域	
	警戒区域	
地すべり危険箇所		
雪崩危険箇所		

河川ハザード情報 凡例

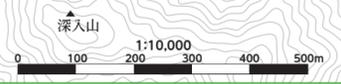
浸水深：～0.5m未満	
浸水深：0.5～3.0m未満	
浸水深：3.0～5.0m未満	
浸水深：5.0～10.0m未満	
浸水深：10.0～20.0m未満	
洪水危険箇所	[平成23年新潟県豪雨時の被災水位]

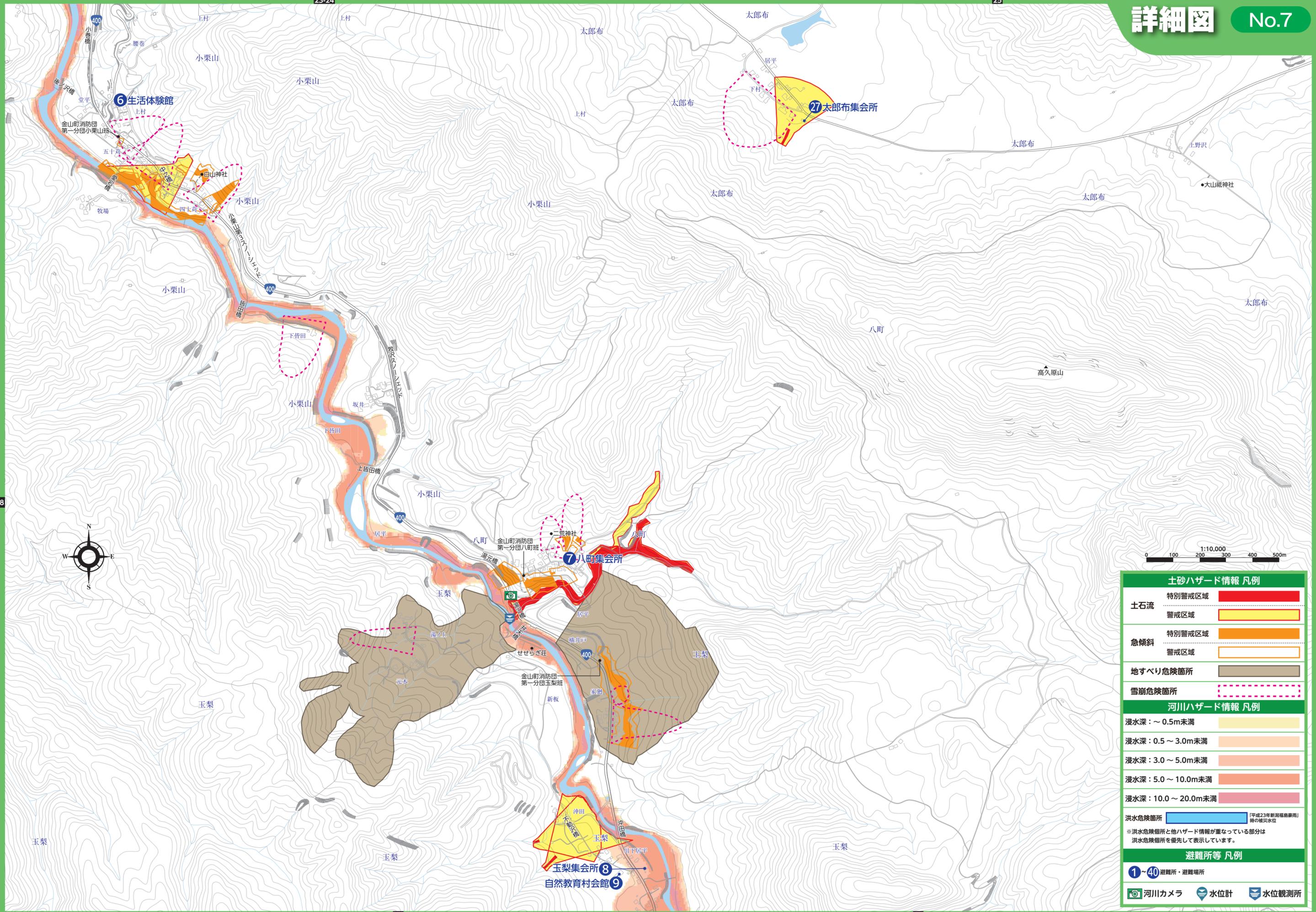
※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は洪水危険箇所を優先して表示しています。

避難所等 凡例

①～④ 避難所・避難場所

河川カメラ 水位計 水位観測所

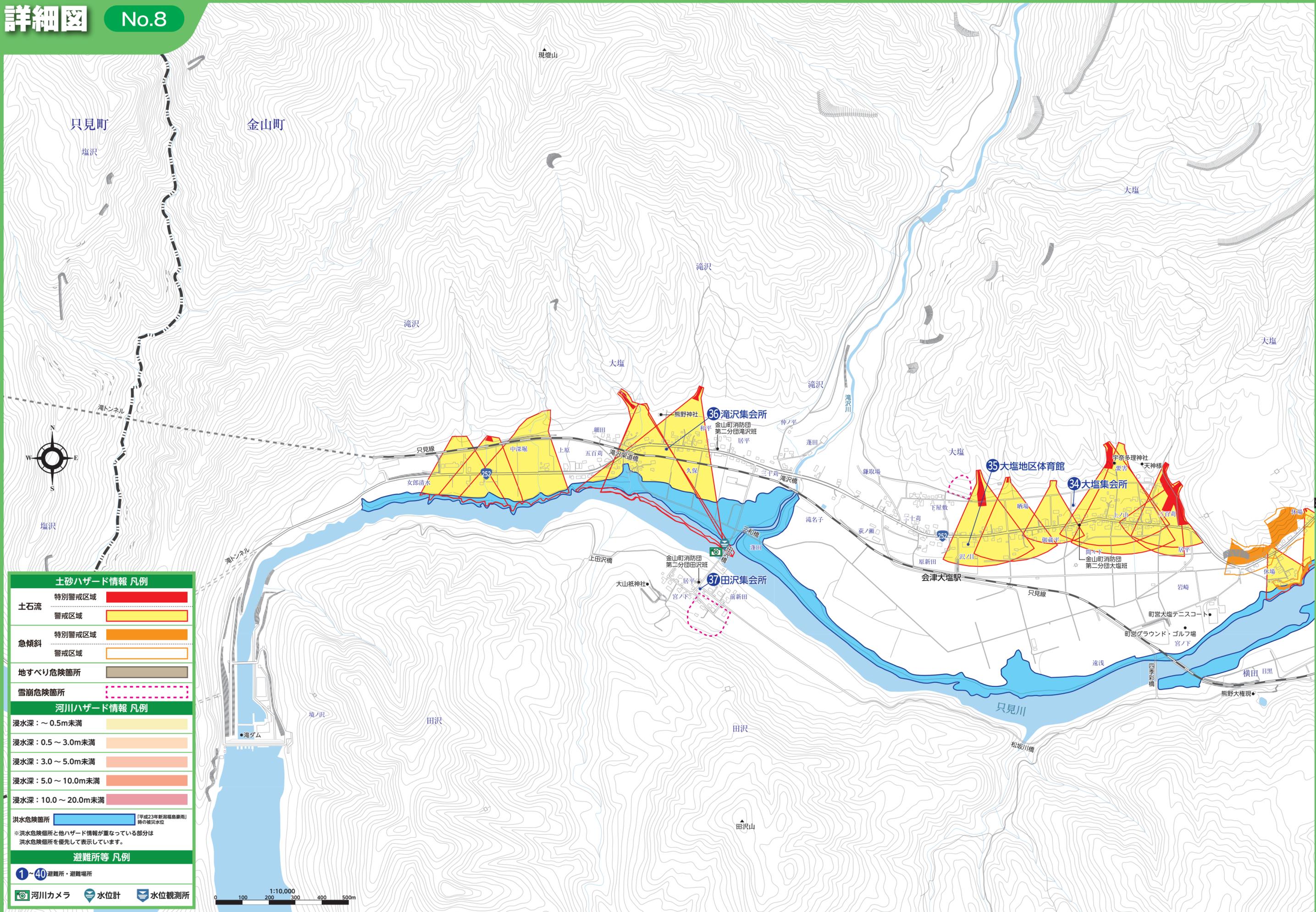


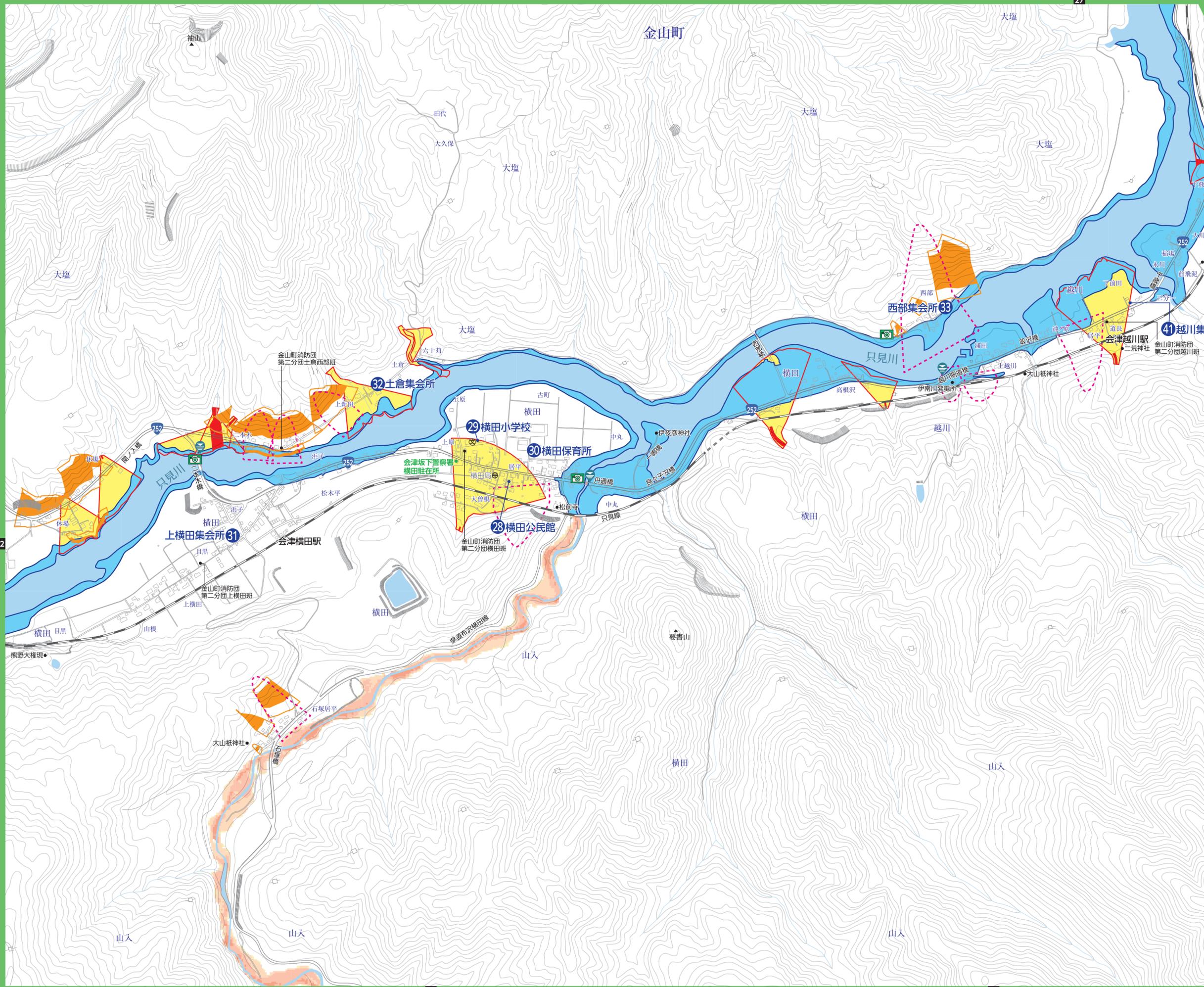


土砂ハザード情報 凡例	
土石流	特別警戒区域
	警戒区域
急傾斜	特別警戒区域
	警戒区域
地すべり危険箇所	
雪崩危険箇所	
河川ハザード情報 凡例	
浸水深：～0.5m未満	
浸水深：0.5～3.0m未満	
浸水深：3.0～5.0m未満	
浸水深：5.0～10.0m未満	
浸水深：10.0～20.0m未満	
洪水危険箇所	<small>【平成23年新潟県豪雨】時の被災水位</small>
※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は洪水危険箇所を優先して表示しています。	
避難所等 凡例	
①～④ 避難所・避難場所	
	河川カメラ
	水位計
	水位観測所

1:10,000  
0 100 200 300 400 500m







土砂ハザード情報 凡例

土石流	特別警戒区域	
	警戒区域	
急傾斜	特別警戒区域	
	警戒区域	
地すべり危険箇所		
雪崩危険箇所		

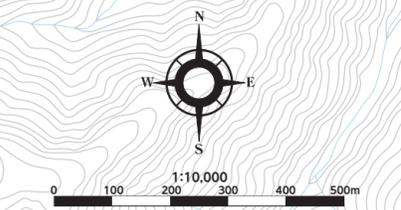
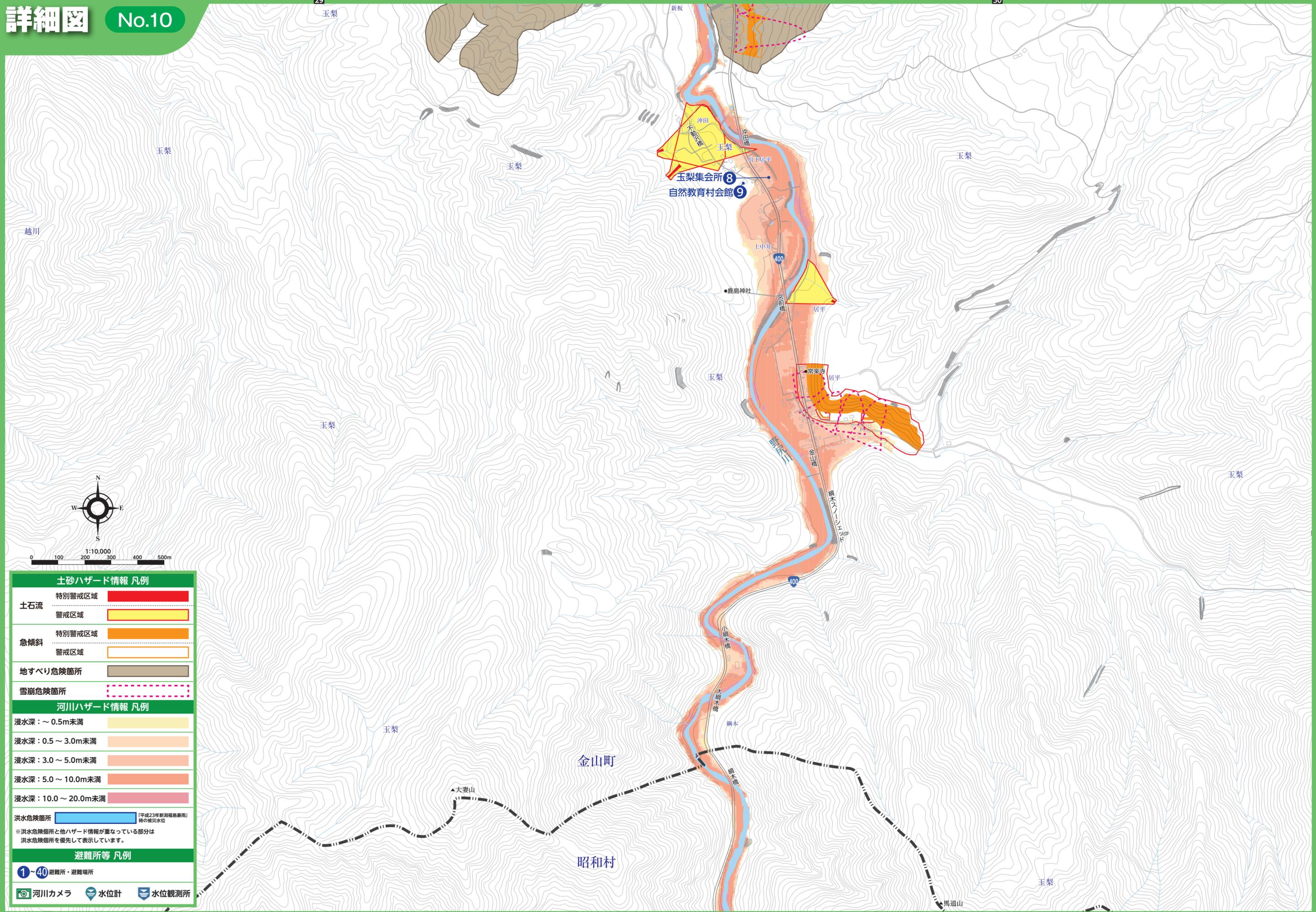
河川ハザード情報 凡例

浸水深：～0.5m未満	
浸水深：0.5～3.0m未満	
浸水深：3.0～5.0m未満	
浸水深：5.0～10.0m未満	
浸水深：10.0～20.0m未満	

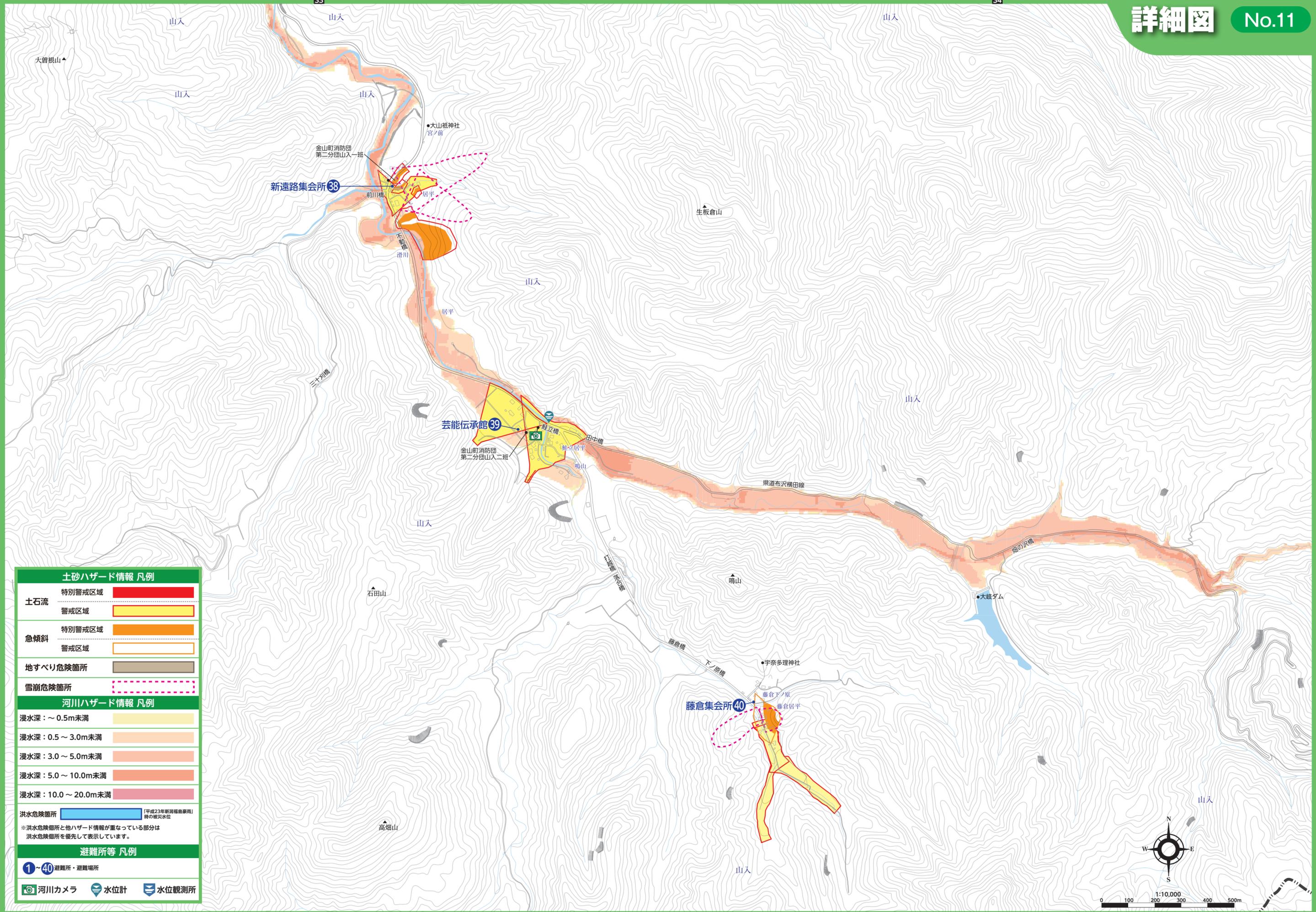
洪水危険箇所 [平成23年新潟県豪雨時の被災水位]  
 ※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は洪水危険箇所を優先して表示しています。

避難所等 凡例

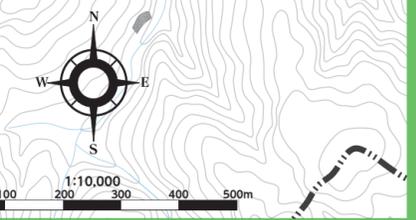
- 1～40 避難所・避難場所
- 河川カメラ
- 水位計
- 水位観測所



土砂ハザード情報 凡例	
土石流	特別警戒区域
	警戒区域
急傾斜	特別警戒区域
	警戒区域
地すべり危険箇所	
雪崩危険箇所	
河川ハザード情報 凡例	
浸水深：～0.5m未満	
浸水深：0.5～3.0m未満	
浸水深：3.0～5.0m未満	
浸水深：5.0～10.0m未満	
浸水深：10.0～20.0m未満	
洪水危険箇所	<small>【平成23年新潟福島豪雨】等の被災水位</small>
<small>※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は洪水危険箇所を優先して表示しています。</small>	
避難所等 凡例	
①～④	避難所・避難場所
	河川カメラ
	水位計
	水位観測所



土砂ハザード情報 凡例	
土石流	特別警戒区域
	警戒区域
急傾斜	特別警戒区域
	警戒区域
地すべり危険箇所	
雪崩危険箇所	
河川ハザード情報 凡例	
浸水深：～0.5m未満	
浸水深：0.5～3.0m未満	
浸水深：3.0～5.0m未満	
浸水深：5.0～10.0m未満	
浸水深：10.0～20.0m未満	
洪水危険箇所	<small>〔平成23年新潟福島豪雨〕 時の被災水位</small>
<small>※洪水危険箇所と他ハザード情報が重なっている部分は 洪水危険箇所を優先して表示しています。</small>	
避難所等 凡例	
1～40 避難所・避難場所	
河川カメラ	水位計
水位観測所	



	施設名	所在地	電話
【行政機関】	金山町役場	金山町大字川口字谷地393	0241-54-5111
	金山町役場 横田出張所	金山町大字横田字居平601-1	0241-56-4111
	会津坂下消防署 金山出張所	金山町大字中川字大田面1482-2	0241-55-3100
	会津坂下警察署 金山駐在所	金山町大字川口字谷地381-1	0241-54-2054
	会津坂下警察署 横田駐在所	金山町大字横田字上原1233-1	0241-56-4110

【ライフライン】	電 気	東北電力ネットワーク(株)【停電・緊急時など】	0120-175-366
	電 話	東日本電信電話(株) 【電話の故障、電話線の垂れ下がり発見時など】	113(固定電話から) 0120-444-113 (携帯電話から)
	水 道	金山町建設課上下水道係	0241-54-5315

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたい、わが家の情報です。  
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関などに情報を提供します。

### 家族の集合場所

氏 名	避難所・避難場所	連絡方法

### 家族の連絡先及び医療情報

氏 名	続柄	電話番号(自宅・携帯)	電話番号(会社・学校)	生年月日	血液型	医療情報(持病・アレルギー・常備薬)
					型	
					型	
					型	
					型	
					型	

### 親族・知人

氏 名	間柄	電話番号

### かかりつけ医療機関

医療機関名	電話番号

## 緊急ダイヤル

消防へ火事・救急・  
救助の連絡

**119**

警察へ事件・  
事故の連絡

**110**

海上の事件・  
事故の連絡

**118**

## 災害用伝言ダイヤル「171」

災害時には電話がつながりにくくなります  
「171」に電話をかけると、伝言の録音や再生ができます

